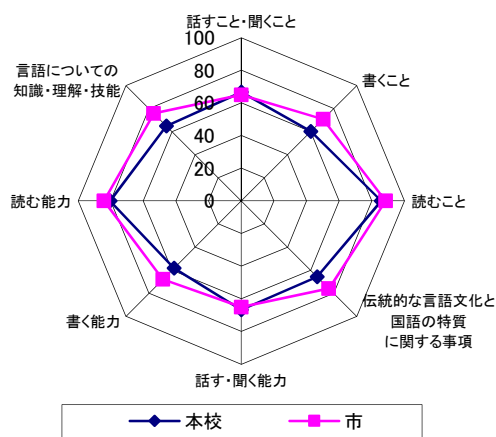


宇都宮市立平石北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	66.7	65.0	62.9
	書くこと	60.2	70.9	71.3
	読むこと	85.7	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.7	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	66.7	65.0	62.9
	書く能力	58.2	68.0	68.0
	読む能力	80.4	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	65.0	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

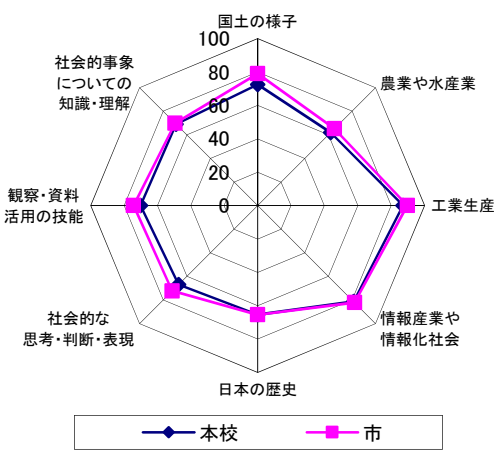
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・正答率は、宇都宮市の平均を約1.7ポイント上回っている。 ・話し手の意図や工夫を考えながら、話し合いの内容を聞くことがよくできている。 ・司会者の役割を理解し、テーマに沿って話し合いを進めることができています。	・学年に応じた話し合いの進め方のマニュアルを提示し、見通しをもって主体的に話し合いに参加できるようにする。 ・「話し方、聞き方のポイント」を示し、自分の考えを明確に伝えたり、相手の考えを正確に理解したりできるようにする。 ・ペア学習やグループ活動での話し合いの際、相手や目的に応じて自分が伝えたいこと、相手の意図を捉えながら自分の意見を比べる活動の機会を今後も取り入れていく。
書くこと	・正答率は、宇都宮市の平均を約10.7ポイント下回っている。 ・与えられた情報を読み取り、必要な内容を書き加えたり、訂正したりすることはできる。 ・指定された分量や内容、段落構成で文章を書くことが苦手である。	・課題作文などの学習では、書く内容に合った構成メモを作成し、段落のまとまりに気を付けながら書くことができるようにする。 ・国語の授業以外でも日記指導などを取り入れ、自分の考えを分かりやすく表現する練習を繰り返す行う。 ・総合的な学習の時間等において、必要な情報を集め、分かりやすくまとめる活動を意識的に取り入れる。
読むこと	・正答率は、宇都宮市の平均を約2.7ポイント下回っている。 ・物語文においては、文章の表現を工夫して読み取ることができる。 ・説明文においては、段落相互の関係を考えながら内容を読み取ることがやや苦手である。	・説明文の学習では、繰り返し出てくる重要語句や筆者の考えが読み取れる文に着目し、段落相互の関係を考えながら内容を読み取れるようにする。 ・読書を奨励し、いろいろな分野の本を進んで読むように指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・正答率は、宇都宮市の平均を10.1ポイント下回っている。 ・文の中における主語と述語などの関係に注意して、文を正しく書くことに問題について課題が見られた。 ・学年配当漢字を書くことに個人差があり、十分理解している児童もいるが、定着が図れていない児童も見られる。	・伝えたいことを相手に正確に伝える上で、主語と述語が適切な係り受けになっていることが重要であることに気付くようにさせたり、文章を読むときにも意識させるようにする。 ・漢字を正確に読み書きできるように、朝の学習やミニテスト、家庭学習において既習漢字の習熟を図る。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	72.6	79.1	74.9
	農業や水産業	61.8	65.1	63.7
	工業生産	87.1	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	81.4	82.2	73.1
	日本の歴史	65.4	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	66.8	72.2	69.0
	観察・資料活用の技能	70.2	74.3	69.2
	社会的事象についての知識・理解	69.1	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

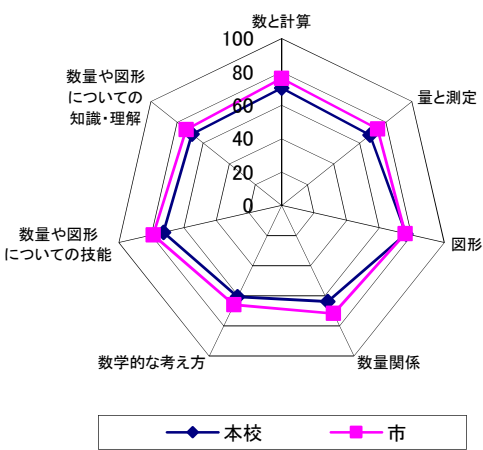
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	・正答率は、宇都宮市の平均を6.5ポイント下回っている。 ・日本の周辺の海洋名や、主な国の名称と位置については、ほぼ理解している。 ・日本の国土の理解についての問題は、正答率が宇都宮市の平均を約15.9ポイント下回っている。	・地図やグラフなどの資料の読み取り方を繰り返し指導するとともに、その特徴に当てはまる地域を限定することができるようになる。 ・自分たちの生活と環境について自ら課題をもち、インターネットや図書資料等を活用して調べるとともに、分かったことをまとめる活動を通して学習内容の理解を深める。
農業や水産業	・正答率は、宇都宮市の平均を3.3ポイント下回っている。 ・米作りの作業工程と作業を行う季節について理解している。 ・国産と外国産の農産物の値段の違いについて、資料を読み取り考えて表現することの理解が低い。	・日本の食料生産の実情について最新の資料を基に理解させ、現状の問題点とその解決方法を話し合わせるなど、授業の展開を工夫し、学習内容の理解を深める。 ・理科など他教科との関連も図りながら、学習を進めていくようにする。
工業生産	・正答率は、宇都宮市の平均と2.6ポイント下回った。 ・消費者の多様な需要にこたえ、優れた製品を生産するための工夫や努力について資料を読み取り考えて表現することの理解が低い。	・課題に合った資料を選び、読み取ったことを自分の言葉で分かりやすくまとめる活動を授業の中で繰り返し行い、考える力・表現する力を高める。 ・今までに学習してきた内容と関連づけて課題解決が図れるように指導方法を工夫する。
情報産業や情報化社会	・正答率は、宇都宮市の平均をやや下回っている。 ・放送や新聞などのメディア産業の役割についての理解度が低い。	・自分たちの生活がいろいろな情報から影響を受けて成り立っていることを理解させ、その活用方法や注意点について話し合いを通して考えさせる。 ・道徳など他教科との関連も図りながら、情報との関わり方の指導の充実を図る。
日本の歴史	・正答率は、宇都宮市の平均と同じだった。 ・縄文時代や平安時代についての正答率が高かった。 ・年表などの資料を活用して、時代の出来事や様子について読み取り、文章にまとめることが苦手である。	・それぞれの時代に起きた特徴的な出来事について、自分で調べたり、新聞にまとめたりするなど、授業の展開を工夫し学習内容の理解を深める。 ・現代社会の問題にも興味関心が持てるように、実生活や時事問題とも関連を図りながら指導していく。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	70.4	76.2	72.9
	量と測定	67.8	73.6	70.6
	図形	76.4	76.0	72.1
	数量関係	63.8	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	60.7	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	72.6	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	68.6	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

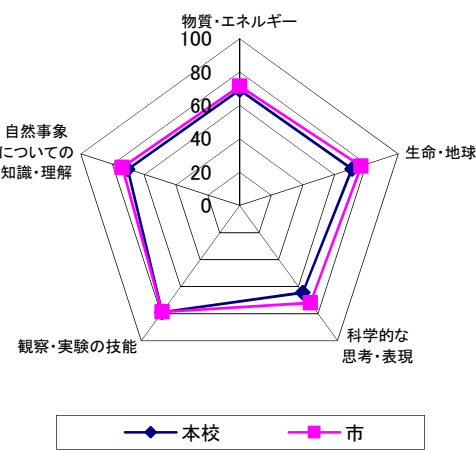
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・正答率は、宇都宮市の平均を約5.8ポイント下回っている。 ・分数のわり算の仕方は、正しく身に付いている。 ・小数のわり算の問題の正答率が低かった。	・計算練習を繰り返し行ったり、ミニテストを定期的に行ったりして、計算力の向上を図る。 ・計算の仕方を機械的に覚えるだけでなく、なぜそのような計算になるのか、話し合いを通して理解を深めていく。 ・既習の学習内容を活用して、問題に取り組むようにする。
量と測定	・正答率は、宇都宮市の平均を約5.8ポイント下回っている。 ・単位量当たりの大きさを使って物の値段を比べる方法は問題の正答率が低かった。	・面積や体積、速さなどの学習では答えを求めるだけでなく、実生活との関連を図りながら、大きさや速さの感覚が身に付けられるようにする。 ・低学年では具体物等の操作活動を十分にを行い、形や大きさなどの感覚を身に付けさせる。
図形	・正答率は、宇都宮市の平均をやや上回っている。 ・合同の条件を理解し、見本の図形を正確に作図する問題の正答率が低かった。 ・線対称の定義や円周の求め方について正しく身に付いている。	・定規やコンパス等を使って作図を指導する際は、十分な活動時間を確保し、使い方の習熟を図る。 ・図形の性質や特徴については、学年に応じて具体的な操作活動を取り入れ、学習内容の理解を深める。
数量関係	・正答率は、宇都宮市の平均を8.0ポイント下回っている。 ・帯グラフの見方や比例・反比例の関係、割合や比の意味についての理解度が低い。	・割合や比の指導では、実生活との関連を図り具体的な場面を想定して問題を作るなど、児童が興味関心をもって問題に取り組めるように授業の導入の仕方を工夫する。 ・グラフの指導では、社会科など他教科との関連を図りながら指導する。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.3	71.6	67.4
	生命・地球	70.8	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	64.3	72.1	68.8
	観察・実験の技能	79.0	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	70.4	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・正答率は、宇都宮市の平均を2.3ポイント下回っている。 ・水溶液の性質については、正答率が市の平均を上回っている項目が多い。 ・ふりこのきまりや電磁石の性質については、正答率が市の平均を下回っている項目が多い。	・興味関心をもって実験に取り組めるように、授業の導入の仕方を工夫する。 ・学習内容の理解を深めるために、実験結果のまとめや考察の時間を十分に確保するとともに、児童が自ら自然の法則性を発見し、自分の言葉で説明できるように指導する。
生命・地球	・正答率は、宇都宮市の平均を5.8ポイント下回っている。 ・生物とかんきょうについては、正答率が市の平均を上回っている項目が多い。 ・動物のつくりとはたらきや月と太陽の関係については、正答率が市の平均を下回っている項目が多い。	・月や地層の観察など、学校では実際に観察できない内容については、図書資料やインターネット動画などを活用して、学習内容の理解を深める。 ・動植物の観察では指導計画の自校化を図り、変化がとらえやすいように長い期間観察ができるようにする。

宇都宮市立平石北小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的に話し合い、考え 深め合う授業づくり	授業改善に向けた3つの視点「めあて・振り返り・自分の考えを書く」を重視し、授業の中で適切な指示や発問を教師がコーディネートしていく。	「めあて・振り返り・自分の考えを書く」時間を十分確保することで、学習内容の定着を高めていくことができた。
	話し合いなどの言語活動の充実を図り、学習形態を工夫することで、多様な意見に触れ、自分の考えを深めていく。	ペアやグループ活動など学び合いを深める学習形態を工夫してきたことで、多様な意見に触れながら自分の考えを深めることができた。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

教科に関する調査から、漢字の書きや計算などの基本的な知識や技能に関わる問題に課題が見られたり、記述式において自分の考えを書いているのに条件に当てはまらなかったりという誤答が多かった。前学年までの内容や学期末・学年末の復習において、基礎・基本の問題や自分の言葉で説明するような知識技能を活用する学習活動の充実させる。また、単元の導入などに前学年までの内容を復習する機会を設定したり、朝の学習の時間に全学年T、Tを行い定着を図れるようにする。